

西洋史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
西洋史特論Ⅰ	イングランド人の王ウィリアム1世とその世界	2	有光 秀行	1	月曜3限
西洋史特論Ⅳ	ニコライ・ブハーリンとロシア革命	2	浅岡 善治	2	金曜3限
比較文化史学特論Ⅰ	ソ連現代史研究の諸問題	2	寺山 恭輔	2	金曜2限
西洋古代・中世史研究演習Ⅲ	ヨーロッパ中近世史料研究	2	有光 秀行	1	火曜3限
西洋古代・中世史研究演習Ⅳ	ヨーロッパ中近世史料研究	2	有光 秀行	2	火曜3限
西洋近現代史研究演習Ⅰ	欧米近現代史研究方法論	2	浅岡 善治	1	月曜2限
西洋近現代史研究演習Ⅱ	欧米近現代史研究方法論	2	浅岡 善治	2	月曜2限
比較文化史学研究演習Ⅰ	ソ連史文献研究Ⅰ	2	寺山 恭輔	1	金曜4限
比較文化史学研究演習Ⅱ	比較文化史学研究演習Ⅱ	2	寺山 恭輔	2	金曜4限

科目名：西洋史特論Ⅰ

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：有光 秀行

コード：LM11304, **科目ナンバリング：**LGH-HIS612J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：イングランド人の王ウィリアム 1 世とその世界

2・授業の目的と概要：この授業は、イングランド人の王ウィリアム 1 世（ノルマン人の公ギヨーム 2 世）の生涯をたどりながら、ブリテン諸島と大陸ヨーロッパの関係の変化など、11 世紀西北ヨーロッパ世界を理解することを目的とします。

3. 学習の到達目標：11 世紀西北ヨーロッパ世界におこった大きな変化を理解できるようになることと、歴史の中の人物について理解できるようになることを、目標とします。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 誕生から 1040 年代前半まで (1)
3. 同上 (2)
4. 同上 (3)
5. 1066 年まで (1)
6. 同上 (2)
7. 1066 年 (1)
8. 同上 (2)
9. 同上 (3)
10. 1070 年代前半まで (1)
11. 同上 (2)
12. 同上 (3)
13. 亡くなるまで (1)
14. 同上 (2)
15. まとめ

5. 成績評価方法：レポート

6. 教科書および参考書：教室で指示します。

7. 授業時間外学習：予習・復習を必ずおこなうこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：西洋史特論Ⅳ

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：浅岡 善治

コード：LM25305, **科目ナンバリング：**LGH-HIS615J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ニコライ・ブハーリンとロシア革命

2・授業の目的と概要：ロシア革命初期の指導者ニコライ・イヴァノヴィチ・ブハーリン（1888-1938）の思想と行動を中心に、ロシア革命の展開とスターリン体制の成立過程を再検討する。

3. 学習の到達目標：・ロシア革命の一指導者の生涯を切片に、近現代ヨーロッパ史の展開過程を把握する。
・ヨーロッパ近現代史の知見を元に、諸事象を「歴史的に」捉える思考様式を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに——本講義の趣旨と進め方について
2. 「モスクワっ子」
3. 亡命と世界戦争
4. 「十月」
5. 左翼共産主義
6. ボリシェヴィズムの理論家
7. 新経済政策
8. 社会主義への道
9. 党内闘争
10. 後期ネップの危機
11. 「右翼偏向」
12. 「上からの革命」
13. 大テロルと見世物裁判
14. 歴史の中のブハーリニズム
15. 総括と展望

5. 成績評価方法：期末試験による（100％）。

6. 教科書および参考書：S・F・コーエン『ブハーリンとボリシェヴィキ革命——政治的伝記、1888-1938 年』塩川伸明訳、未来社、1979 年。
その他、順次授業内で紹介していく。

7. 授業時間外学習：講義内容は平易を旨とするが、受講者が何らかの理由で本来備えるべき基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：比較文化史学特論 I

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM25203, **科目ナンバリング：**LGH-HIS616J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ソ連現代史研究の諸問題

2・授業の目的と概要：ソ連という国家が成立する契機となったロシア革命から 100 年以上経過したが、約 70 年にわたるソ連の歴史研究は、30 年前のソ連崩壊を契機に進展を遂げてきた。本授業ではソ連国内外におけるソ連史研究の歩みを振り返り、特にスターリン時代の極東地方に焦点をあて、その歴史を概観するとともに、今後の研究を展望する。

3. 学習の到達目標：1. ロシア国内外におけるソ連研究の歴史、現状を理解する。
2. スターリン時代のソ連極東地域の発展過程を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション ソ連時代、ソ連崩壊後のソ連史研究
2. ソ連極東とは？ アムール総督府時代、ロシア革命とロシア極東
3. シベリア出兵、極東共和国、1920 年代のソ連極東、スターリンの上からの革命とソ連極東
4. 満州事変とソ連指導部、兵士の反応
5. 鉄道輸送と極東への動員、鉄道の軍事化
6. 潜水艦・魚雷艇建造と極東への搬送
7. 中央と地方当局による発疹チフス蔓延防止措置
8. 備蓄の構築と極東地方における食料供給
9. ソ連の不可侵条約政策と日本、ポーランド
10. ソ連極東における気象観測・通信網の整備
11. ソ連極東沿岸における要塞、砲台建設
12. 北極海航路の開発と白海バルト海運河
13. ソ連海運による極東への輸送
14. ダリストロイの形成、国境紛争
15. 独ソ戦争時代のソ連極東、1945 年の日ソ戦争と北方領土問題第二次世界大戦後のソ連極東
16. 総括

5. 成績評価方法：レポート 50%、出席 50%

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、授業の中で適宜、参考文献を紹介する。

7. 授業時間外学習：紹介する参考文献を読んでくること。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00
事前にメールで連絡しておくこと。

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅲ

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：有光 秀行

コード：LM12308, **科目ナンバリング：**LGH-HIS619J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. **授業題目：**ヨーロッパ中近世史料研究

2. **授業の目的と概要：**中近世ラテン語史料の理解力を涵養することを目的とします。

3. **学習の到達目標：**中近世ラテン語史料の高度な理解力を涵養する。

4. **授業の内容・方法と進度予定：**

中近世史のラテン語史料について、その読解力の涵養および、先行研究から史料利用の可能性を学ぶことを、内容とします。第 1 回目の授業で具体的なテキストと進度について打ち合せし、それに基づいて 2 回目以降の授業をおこないます。

5. **成績評価方法：**授業参加状況による。

6. **教科書および参考書：**教室で指示します。

7. **授業時間外学習：**予習および、特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

8. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. **その他：**

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅳ

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：有光 秀行

コード：LM22303, **科目ナンバリング：**LGH-HIS620J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. **授業題目：**ヨーロッパ中近世史料研究

2・**授業の目的と概要：**中近世ラテン語史料の理解力を涵養することを目的とします。

3. **学習の到達目標：**中近世ラテン語史料の高度な理解力を涵養する。

4. **授業の内容・方法と進度予定：**

中近世史のラテン語史料について、その読解力の涵養および、先行研究から史料利用の可能性を学ぶことを、内容とします。第 1 回目の授業で具体的なテキストと進度について打ち合せし、それに基づいて 2 回目以降の授業をおこないます。

5. **成績評価方法：**授業参加状況による。

6. **教科書および参考書：**教室で指示します。

7. **授業時間外学習：**予習および、特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。

8. **実務・実践的授業/Practical business**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：西洋近現代史研究演習Ⅰ

曜日・講時：月曜2限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：浅岡 善治

コード：LM11203, **科目ナンバリング：**LGH-HIS621J, **使用言語：**日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：欧米近現代史研究方法論

2・授業の目的と概要：欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。

3. 学習の到達目標：・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握
・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. テキストの検討・討論(1)a
3. テキストの検討・討論(1)b
4. テキストの検討・討論(1)c
5. テキストの検討・討論(1)d
6. テキストの検討・討論(1)e
7. 小括(1)
8. テキストの検討・討論(2)a
9. テキストの検討・討論(2)b
10. テキストの検討・討論(2)c
11. テキストの検討・討論(2)d
12. テキストの検討・討論(2)e
13. 小括(2)
14. 総括に向けて
15. 総括

5. 成績評価方法：出席：30％・その他(受講態度、課題の達成度など)：70％

6. 教科書および参考書：テキストは開講後発表。

7. 授業時間外学習：ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：西洋近現代史研究演習Ⅱ

曜日・講時：月曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：浅岡 善治

コード：LM21203, **科目ナンバリング：**LGH-HIS622J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：欧米近現代史研究方法論

2・授業の目的と概要：欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。

3. 学習の到達目標：・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握
・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. テキストの検討・討論(1)a
3. テキストの検討・討論(1)b
4. テキストの検討・討論(1)c
5. テキストの検討・討論(1)d
6. テキストの検討・討論(1)e
7. 小括(1)
8. テキストの検討・討論(2)a
9. テキストの検討・討論(2)b
10. テキストの検討・討論(2)c
11. テキストの検討・討論(2)d
12. テキストの検討・討論(2)e
13. 小括(2)
14. 総括に向けて
15. 総括

5. 成績評価方法：出席：30％・その他(受講態度、課題の達成度など)：70％

6. 教科書および参考書：テキストは開講後発表。

7. 授業時間外学習：ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。また何らかの事由により基本的知識や素養を欠く場合は、各自の主体的な努力が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：比較文化史学研究演習Ⅰ

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM15405, **科目ナンバリング：**LGH-HIS623J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ソ連史文献研究Ⅰ

2・授業の目的と概要：ロシア・ソ連史に関するロシア語及び英語文献を読むことで、ロシア語及び英語の解読能力の向上をはかる。受講者が交代で、自分の研究分野に関する論文の要旨を発表し、それに関して出席者全員で議論する形で授業を進める。ロシア語に関しては、受講生のロシア語読解力のレベルに応じて、適宜テキストを選択する。

3. 学習の到達目標：1. 研究文献を読むことにより、ロシア・ソ連史を研究するために必要なロシア語及び英語の読解力を高める。
2. 参考文献の探し方、引用の方法も同時に学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

担当となる受講者は、事前に自分の関心のあるテーマに関するロシア語または英語の論文を選び、受講者全員に配布するとともに、発表当日には要旨をまとめて参加者の人数分配布し、発表すること。以下、毎週同じ。

5. 成績評価方法：授業への出席（50％）と報告の内容（50％）によって判定する。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。

7. 授業時間外学習：発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

オフィスアワー 金曜日 16：00－17：00

事前にメールで連絡しておくこと。

科目名：比較文化史学研究演習Ⅱ

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM25407, 科目ナンバリング：LGH-HIS624J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：比較文化史学研究演習Ⅱ

2. 授業の目的と概要：前期と同じ

3. 学習の到達目標：前期と同じ

4. 授業の内容・方法と進捗予定：
前期と同じ

5. 成績評価方法：前期と同じ

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。

7. 授業時間外学習：発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00

事前にメールで連絡しておくこと。